

京都支部総会 2023 年に向けて

支部長 西川 昌樹

コロナ禍が長引いて、世界の常識が大きく覆ってしまった感があります。

日本心臓ペースメーカー友の会の活動も大きく影響を受けました。

京都支部も大きく変わらざるを得なかった支部の一つです。

支部長の交代を余儀なくされたこと、副支部長はじめ会計・事務担当・広報担当など、大切な役目を担う会員諸氏が高齢化と持病の進行などを理由に軒並み辞意を表明されました。会員の皆様もやはり高齢化とともに支部の集まりや本部から郵送される「かていてる」誌を読むことも困難となったなど、寂しいお便りを頂きました。現在の支部会員数は 60 名です。かつては 150 名を超えていましたが、急速な減少に驚いています。

京都支部は西尾草峯前支部長の心身の負担の増大を受けて、私西川昌樹が急遽支部長を引き受けることによって支部の存続を図ってきました。今年東京での全国総会のあと、本部から大いなるご支援を頂いて、京都支部としての活動を継続することが出来るようになりました。心からお礼を申し上げたいと思います。

2023 年の京都支部総会はコロナ禍の一応の落ち着きを社会全体で受け入れたことにより、対面での開催が可能となりました。休会中は会員の皆様に連絡も出来ず誠に失礼しました。今年度の開催を祝う心と共に、お詫びしたい気持ちで一杯です。

10 月 14 日に六地藏総合病院の会議室を使用して総会を開催できることになりました。参加される会員の方々の多からんことを祈ります。

京都支部総会報告

秋になりました。コロナ禍はひとまず落ち着いたと判断されて、社会生活が 3 年前に戻つつあります。

10 月 14 日に 2023 年度京都支部総会を実施しました。簡単にその報告を致します。

場所	徳洲会六地藏総合病院	会議室
参加者	支部会員は総計	13 名
	近畿地区各支部から	6 名
	東京本部から	1 名
	特別講演 演者	1 名



会の司会進行は、滋賀県支部の藤井鈴子支部長にお願いいたしました。

- 1) 冒頭、物故者に対する黙とうを捧げました
- 2) 支部活動報告 2020年から2023年までの報告を、西川支部長により行いました。コロナ禍による対面での集会在禁止状態でしたので実質的には活動がゼロであったことを報告しました。その間支部報を発行したことについては、発言の中に加えることを、失念したことを申し訳なく思っております。遅ればせながらお詫び申し上げます。

本年6月24日に東京に於いて、日本心臓ペースメーカー友の会の全国総会が実施されました。京都支部からは支部長一人が参加しました。その折、京都支部に於いて、理事・役員の方々がほぼ全員が高齢化と持病の進行により、役員の大任を果たせないとの申し出が相次ぎ、事実上支部長一人が会の運営に携わることになった現状を相談して、いくつかの業務を本部役員の方々にお願いすることに致しました。そのように申し出て頂いたことに、有難く甘えることにいたしました。

具体的には、①支部財務の点検と管理、②支部会員への郵便による連絡。この2点を中心にお手伝いを頂くことにしました。本部の事務仕事は全国の会員へのかかっている誌の発行と発送・かかっている誌の編集など多忙を極めていると知りながらの京都支部へのご協力をお願いしました。

今回の支部総会の連絡は東京本部から届けられたと思います。



戸川会長からのご挨拶文は大変思いやりに満ちた文章でありました。

人工ペースメーカーを装着した患者さんの生きざまを前向きにとらえて人生の健やかに全うされることを願っておいでであり、力を頂く感じを受けます。そ

のコピーをこの報告に転載しています。

3) 支部の会計報告は、本年まで会計役員を務めて頂いた初田久美子氏の詳細な帳簿記載内容を本部の会計監査を受けて、間違いのないことを報告しました。

4) 京都支部の今後の活動計画について

まず支部役員人事を急ぎ具体化する必要があります。いつまでも東京本部に甘えるわけにはいきません。

京都府北部勉強会、以前のような日帰り懇親会を兼ねた勉強会など、会員の皆さんに楽しんで頂けるような企画を実現したいと思っています。ご協力を切にお願いいたします。

5) 特別講演には六地蔵総合病院の脳外科医である安河内靖先生をお願いいたしました。演題は「頭痛」です。頭痛を症状とする疾患について、基礎的な知識から診断・治療についてスライドを使用して解りやすく講演して頂きました。1時間を超えて熱心な講演に感謝です。講演内容についてのまとめは別紙にて示します。



6) 最後に、質疑応答 (Q & A) が行われました。

例年の如くですと、出席した顧問医師たちが出席会員からの質問に応えるのですが、今回は各顧問医師に所用が重なったこともあり、西川医師が一人で答えると言う形で進みました。

① サウナや入浴などペースメーカー（以後 PM）に影響はないか？

A：ヒートショックという言葉が最近特に冬場には注意事項として新聞などでも見られます。PM 自体はサウナの熱により故障することはありません。故障するほどの高温の環境には人体が耐えられません。サウナは 100℃に近い空間です。室内の水分が（湿度）低いから耐えられるのです。普通の浴槽で 100℃の熱湯には人は耐えられません。せいぜい 50℃くらいでしょうね。



② 肩の運動；回転運動や左右互い違いに動かすなどの運動により PM の電線（リード）が切れやすい、破損しやすいという事は無いか

A：普通の運動であれば破損・折損などの事故は起こりません。但し運動量の強さや瞬発的な力の加わり方によってはどのような外力が PM とリードに予想以上の力・負担がかかることもあり得ます。心配になれば、PM 外来でのチェックを早くに変更してくれと要求してください。どの PM でもコンビ

ユーザーでPMの状態を必ず調べます。PM本体の電池寿命やリードの破損状況も必ず調べます。何よりもPMの作動が不安定になれば、何らかの症状が出ると考えて下さい。PMの作動不全による症状が判らない方々はPM担当主治医にあらかじめ質問しておくべきです。リードの断線や破損はリードを包む合成樹脂のおかげで実際は断線していても、付いたり外れたり不安定な場合もありますので注意が必要です。断線が疑われたら早く相談してください。

③ MRI対応のPMについて、初回のPMを植え替える時にMRI対応型PMに替えられた。MRIを心配なく利用できるか？

A：MRI非対応のPMはリードも非対応です。アメリカなどでは実は非対応のリードにも新しくMRI対応型に植え替える事例が少なくないと機器メーカーから聞いた覚えがあります。しかしMRIという機械は強い磁力（電磁波）を加えることで人体内部の水素原子を動かすことにより、その動きを作図する技術によりCTと同じような画像を得ることができます。いわば電子レンジと同じ原理ですからリードの先端部の金属部分が発熱することが考えられます。それによって心筋の組織が火傷を負うことになる可能性があります。従って、PM本体の電磁波による破壊的な影響の恐れと含めて実際には心臓外科医とME職員が待機した状態でMRI検査を行うべし、と条件が定められています。これが条件付きMRI対応型PMです。六地蔵総合病院で私が植込んだMRI対応型PMの患者さんが脳梗塞を疑って緊急で他の病院にMRI検査が必要と言われて、その病院が実施したPM手術ではないから、引き受けられませんと断られた事例もあります。PMとMRIの関係の不安定さでもありまじょうが、実際問題としては、不自由なものであります。

④ PM手術の後、次回のPMチェックは1年後で良いと言われて不安である。しかもPM外来の医師は患者の顔も見ないで、聴診器も当てず、機器メーカーの報告書だけ見て、「はい、来年ね！」このような対応に不満である。

A：最近よく聞くことになりましたが診察時に医師がパソコンばかり見て、患者を診ない、そのような情景であろうかと推察します。その医師と患者の関係でありますから、何とも表現しかねます。しかし私の患者さんが昨年曰く、聴診器を使ってくれる先生が少ないと。ちなみに私は電子カルテを使っていません。六地蔵総合病院での診察時には電子カルテですが、西川医院では昔ながらの紙カルテです。医師と患者の関係は昔から色々笑い話にもなることも多いのですが、それぞれの担当医に直接疑問をぶつけて下さい。具体的な解決策や指導方法はありません。

以上が14日に実施された京都支部総会の記録です。質疑応答の部分では、患者さんからの質問の言葉の細かな間違い（記憶違い）があるかと思いますが、その点はお許しください。

2023年10月15日 文責 西川 昌樹

戸川会長からのメッセージ

西川 昌樹先生

京都支部総会にご出席の皆さま

京都支部におかれましては、困難な状況にありましても、このたび支部総会が開催されるはこびとなりましたことに感謝し、支部活動がもとの姿をとりもどし、新たな展望が開けることを心より願っております。

長く続いているコロナ禍により多くの支部で活動が停滞し、休会が検討された支部もありました。しかし困難の中でも何とかして継続しようとする強い意見があつて、結果として休会に決まった支部はないと聞いております。このような状況の中で役員を引き受ける方の苦労は並大抵ではないことは明らかですが、あえてその苦労を背負ってくださる方がおられたなら、支部会員1人ひとりが役員の働きを助けて、役員の荷を軽くするよう努めてくださいますようお願いしています。

その一方で、この難局がこれからの友の会のありかたについて考える機会となるのではないかと思います。いま会員が減っているのは、ペースメーカー医療が普及したために、友の会に入らなくても十分なペースメーカー医療が受けられるようになったためではないかという見方は間違っているとは言えません。けれど、わたしは友の会の活動がぜひとも必要となるのはこれからだと確信しているのです。これまでの医療は患者の命を守ることを目標にして発展してきましたが、しだいに延命の追求は限界に近付いているのです。ペースメーカー医療も延命に大貢献し、平均寿命は健常な人と変りないまでに至っています。

けれども、これからの医療には体の延命だけでなく、1人ひとりの患者の生き方に応じた選択が必要となってきました。ペースメーカー医療においても、延命効果だけではなく、患者の生き方に合った機種の選択やペーシング条件の設定が必要となってきます。それには体の検査だけでなく患者の心を

知ることが必要となり、ペースメーカー医療は医師と患者の共同作業となります。そのとき、友の会で築いてきた支部の会員と相談役の先生との交流が大きな役割をはたすようになるに違いないのです。また、全国 30 の支部が 1 人ひとりの患者のように違った心を持っていて、それぞれユニークな活動をするように発展していくことも期待されます。

今月、友の会のホームページがリニューアルされ、内容が格段に豊富になりました。これからは支部活動も詳しく紹介されるようになり、支部の心も速やかに全国の会員に伝えられるようになります。さらに、ホームページの英語版も構想されています。友の会のような団体は世界に類がなく、英語で情報発信すれば、支部活動も広く世界に知られるようになり、支部の心が世界に注目されるようになるのです。

どうか心のケアを中心にしたこれからのペースメーカー医療に期待するとともに、世界に発信されるユニークな支部の心に夢を託し、いまの支部の難関を乗り越ってくださいませよう切にお願いいたします。

日本心臓ペースメーカー友の会 会長
戸川 達男